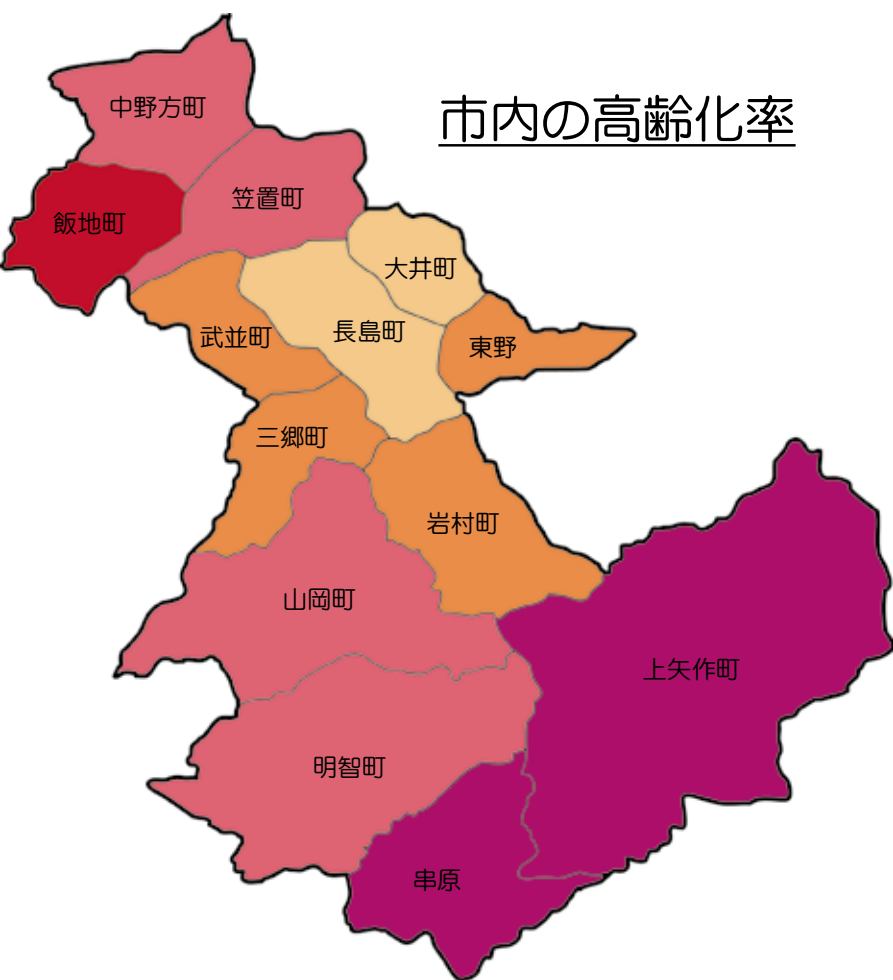




地域別高齢化率一覧

地域	人口	高齢者数	高齢化率
大井町	13,579人	3,092人	22.77%
長島町	10,053人	2,377人	23.64%
東野	1,793人	507人	28.28%
三郷町	2,608人	777人	29.79%
武並町	3,302人	897人	27.17%
笠置町	1,429人	491人	34.36%
中野方町	1,767人	575人	32.54%
飯地町	756人	293人	38.76%
岩村町	5,447人	1,617人	29.69%
山岡町	4,896人	1,533人	31.31%
明智町	6,183人	2,056人	33.25%
串原	845人	338人	40.00%
上矢作町	2,320人	943人	40.65%
全 域	54,978人	15,496人	28.19%

▲高齢化率は、65歳以上の高齢者の人数を人口で割ったもの。いずれも平成23年3月31日現在の数値である



地域で支える高齢者

あなたのさりげない 見守りが必要です

本市の高齢者の状況は、ことし3月末現在で、高齢者人口15,496人、高齢化率28.19%です。さらに独居高齢者と高齢者世帯人口が高齢者の44%を占めています。市では、高齢者が地域を支える大切な力であると再認識し、介護予防を重点的に自らの健康を守る人づくりと、人と人とのつながりを大切にした地域で支える仕組みづくりを目指しています。ここでは、主に市で行われている施策や地域の活動の様子、本年度新たに始まる事業を紹介します。

□問い合わせ 高齢福祉課（内線126）

市の高齢化率は28%超

市の高齢化率は、現在28%（23年3月末）を超えていることを知っていますか。

全国平均の高齢化率は約23%、県平均は約24%と、市は全国的にみても高齢化率が高い地域となっています。市の中で最も高い地域の上矢作町では40・65%。最も低い地域は大井町で22・77%となっています。年々上昇していく高齢化率の中で、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、私たち個人や家族、そして地域では、どのようなことが必要なのでしょう。

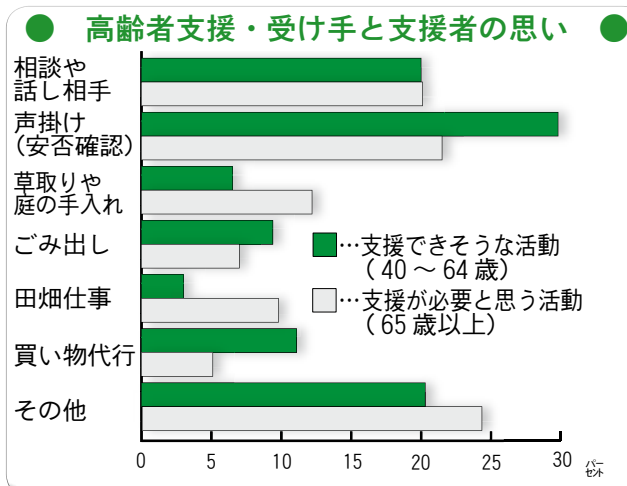
将来に対して不安や心配

昨年度、市では高齢者を取り巻く環境などを知るため、65歳以上の方と40歳以上64歳未満の方にそれぞれアンケートを実施しました。

その中で「今は親を見る立場だが、今後自分たちが高齢になったときに不安」「今は自動車を運転できるからいいが、今後できなくなるときのことを考えると心配」「今は元気にしているが、今後どのように生きていけるか不安」など、自分が高齢になったときに今の生活を続けることが不安や心配という意見が多くありました。

一方、地域での支え合い活動の中

▼週に2度、高齢者の見守りを兼ねて配達されるお弁当。通常ふたを開けずに渡すのだが、この日は中身を見せてもらった



で自分自身ができそうな活動で、より取り組みやすいものには、相談や話し相手、声掛けという回答が多くありました。

市では、これまで高齢者へサービスや制度などの情報発信を重点的に行ってきました。今回の調査で、若い方へも前もって情報提供する必要性が分かりました。今は元気でも、誰もがいつかは年を取ります。そのときを考え、不安を抱く若い世代へ情報発信することは、家庭や地域において「転ばぬ先の杖」となります。市では出前講座や認知症サポーター養成講座を開講しています。地域活動の切っ掛けづくりに、ぜひ利用してください。

平成23年度 新規事業の紹介



【おしゃべりパートナー事業】
高齢者の引きこもりや孤独化が問題となっています。シルバー人材センターの会員が中心となり、外出する機会の少ない高齢者などを訪問して、話し相手となります。明智回想法センターで「回想法スクール」を修了したシルバー人材センターの会員が、会話によって高齢者の孤独感や不安感を和らげ、高齢者にとって楽しさや生きがいを持てるようにします。高齢者のさまざまな経験や知識を次世代へ語り継ぐことで、認知症予防や、高齢者の虐待や孤独死などの防止、高齢者の社会貢献と生きがいづくりにつなげます。

【想い出列車運行事業】
明知鉄道に乗って明智回想法センターへの小旅行を企画します。回想法スクールの修了生で構成する「げんきかい」の方や回想法リーダーが「想い出列車」の中で懐かしい歌を参加者と歌います。その後、回想法センターで、昔を懐かしみ語り合い、高齢者の仲間づくりや交流の手助けをします。思い出を語る回想法は、認知症の予防に最適と言われています。高齢者の閉じ込め予防と認知症予防、お手伝いをいただく高齢者の社会貢献と生きがいづくりが目的です。



【安心お守りキット設置事業】
独り暮らしの高齢者や見守りの必要な高齢者世帯などが、万が一の事態に備えて設置します。これは、氏名や血液型、家族や友人などの緊急連絡先、掛かり付けの医療機関の救急医療活動などに必要な情報を書いたカードを、500ミリのペットボトルほどの大きさのプラスチック容器に入れ、自宅の冷蔵庫に設置するもの。民生委員や福祉委員の方と協力し、定期的に高齢者宅を訪問し、情報の更新と見守りを行います。これによって民生委員と情報が共有でき、地域での見守り活動や、消防、防災活動などにも活用することができま。

地域に根付いた見守り

市では、地域包括支援センターを中心に多くの方と連携を取り、困っている方のお手伝いをしています。岩村町では、岩村町あんしんサポートセンターが中心となり、地域の実態や活動の情報交換や、互いが気軽に連携できる関係づくりを目指して、年1回情報共有の場を設けています。この会へは、警察官や民生委員、地域の医師、郵便局、薬局、居宅介護支援事業所などが参加しています。情報を共有して公的機関と地域の方々と連携を取りながら、地域に根付いた見守りを行っています。この取り組みは、笠置町や飯地町、山岡町でも始まっています。必要とされるのは、専門的な知識や技術だけではなく、皆さんのさりげない見守りや手助けが必要なのです。地域の理解と支えがあれば、独り暮らしの高齢者や何か心配なことがある家族も、安心して自分らしい暮らしを続けることができます。一人一人のちょっとした勇気や思いやりが、安心して暮らせるまちづくりにつながります。地域の方や家族のことで「ちょっと変だな」「何かおかしいかな」と感じたことはありませんか。あなたの「どうかしましたか？」の一声を待っています。



▲各地域での活動も活発。写真はボランティア団体の結いの会（東野）によるお弁当づくりの風景

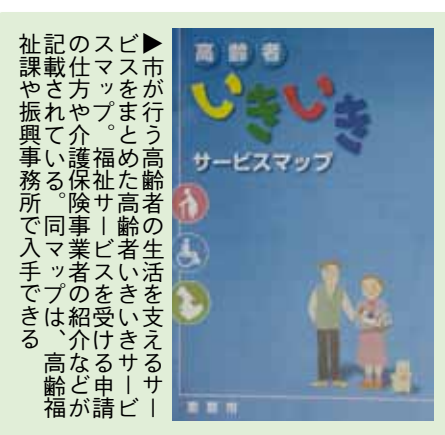
高齢者を地域で支える

地域では、高齢者や障がい者など支援の必要な方を支える取り組みが始まっています。主な活動として「支え合いマップ・福祉マップ」などを作成しています。これは、独り世帯の高齢者などを地域で見守るため、事前に地域で情報を共有するための活動です。支え合いマップの作成にいち早く地域で取り組んだ中野方町では、地域内の自治会長がマップの管理と年1回の更新を行い、今では地域に根付いた見守り活動となっています。この活動は、福祉コミュニティの団体である「まめに暮らしそまい会」の活動の一つ。現在会員を中心に福祉委員が独り暮らしの高齢者を見守る活動を月1回程度行っています。さらに支え合いマップなどの作成活動が、各地で始まっています。また中野方町で運行している高齢者送迎サービス「おきもり」や各地域のサロン活動、独り暮らしの高齢者への弁当づくりなどがあります。社会福祉協議会の武並支部にある

「武並町支え愛の会」では、公的サービスでは対応できない電球交換や家具の移動、草取りなどの簡単な作業を、生活支援策として有償ボランティアが行う安価なサービスも実施しています。このように、協働での活動も始まり、各地域に広がっています。

その人に合わせた支援策

市では、高齢者のさまざまなニーズに応えるため、介護の予防段階から介護が必要になった場合などに分けて、サービスを提供しています。①いきいきと過ごすために
いつでも元気に楽しく、歳を重ねていけるように、地域で音楽療法や軽い運動などの教室を開催。各地域の社会福祉協議会によるサロン活動や老人クラブへ市から講師が出向き、転倒予防教室や口腔ケアなどの教室を行っています。②少し手助けが必要と感じたら
高齢者の閉じこもり防止や介護予防に、市内にある温泉施設の利用助成をしています。独り暮らしの高齢者へは「お元気



▶市が行う高齢者の生活を支えるサービスをまとめた高齢者いきいきサービスマップ。福祉サービスを受ける申請の仕方や介護保険事業者の紹介などが記載されている。同マップは、高齢福祉課や振興事務所でも入手できる。

お食事サービス」という昼食を配達して見守り活動を行っています。③介護が必要になったとき
介護保険のサービスを利用するには、「介護が必要だ」という申請をしてください。

対象者の主治医の意見や専門の調査員が作成する調査票を基に、保健師や介護支援専門員、医師などによる「介護認定審査会」が認定を決めます。審査会で認定された「必要な介護の度合い」によって、利用できるサービスが決まります。「高齢者いきいきサービスマップ」に、利用できるサービスの一覧を掲載しています。

このマップは、高齢福祉課や各振興事務所窓口でお渡ししています。各サービスを利用するには事前に申請が必要です。